

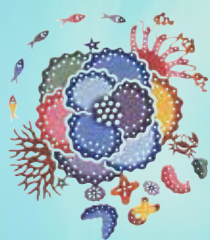
文部科学省科学技術人材育成費補助事業

# ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ(先端型)

## 事業報告書 **令和3年度**

国立大学法人琉球大学ジェンダー協働推進室

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS  
GENDER EQUALITY  
PROMOTION OFFICE



# 女性研究者の上位職登用推進及び管理運営能力向上のための取組

## ◆教員ポスト戦略的再配分(重点改革推進枠)による女性教授限定公募の実施

令和3年度には、令和2年度に行われた女性教授限定公募で採用された2名を含む5名の女性教授が新たに誕生したことにより、女性教授の在職比率を高めることができました。こうした上位職登用を一層加速させ、本事業における目標を達成するために今年度も引き続き「琉球大学教員ポスト戦略的再配分(重点改革推進枠)」を活用した「女性教授限定公募」を実施することを決定しました。

## ◆国際学会派遣 + 1 Visit

国際学会等で研究成果発表を行うために渡航する機会に合わせて、国際共同研究の推進や新たな研究ネットワークの構築、教育研究機関等の管理運営に関する先進的な取組の調査等を行う機会を設け、国際的に通用する研究力の向上と、大学の管理運営を担う上位職人材としてのスキルアップを目的とする制度で、他機関等の訪問(+1 Visit)を含む旅費・学会参加費等を助成しました。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大による海外渡航の制限への対応として、オンラインで行われる国際学会への参加も支援の対象とし、1名が採択されました。

**申請資格** 本学に在職する女性の教員で教授・准教授・講師の職にあるもの(特任教員及び特命教員は除く。)

**内容** 下記の要件を満たす出張を対象とする。

- (1) 国外で開催される国際学会等で本人が自ら研究成果発表を行うもの。原則、当該年度内に帰任するものに限る。
- (2) 国際共同研究を推進するためのミーティングや、新たな研究ネットワークの構築等の研究に関連する訪問、または教育研究機関等における管理運営に関する先進的取組の調査を目的とした訪問を、「+1 Visit」として学会参加のための渡航に合わせて旅程に加えることとする。

**利用者** 喜納 育江(国際地域創造学部 教授)

### 「オンライン+1 Visit が可能にした台湾との交流」

国際地域創造学部国際言語学文化プログラム 教授:喜納 育江

今年度、ジェンダー協働推進の「国際学会派遣 + 1 Visit」に採択され、2021年10月24日にオンラインで開催されたThe 7th International Symposium for Literature and Environment in East Asia(東アジア環境文学国際シンポジウム)での研究発表と、同年11月26日に行った台湾師範大学(NTNU)のIping Liang教授とJoan Chang教授とのオンラインでの意見交換を助成していただきました。

韓国、台湾、イギリス、インド、カナダからの参加者があり、オンラインで行われた同シンポジウムでは、セッションの一つである「エコクリティシズムとCOVID-19の危機(Ecocriticism and COVID-19 Crisis)」で、「The Environmental Consequences of Declining Carnal Memories under COVID-19(コロナ禍における身体的記憶の衰退が導く環境学論的結末)」と題して研究発表を行いました。

また、+1 Visitとして、台湾師範大学(NTNU)のLiang教授とChang教授にNTNUの大学運営におけるジェンダー平等の実態について話をうかがいました。台湾と日本の大学機関における女性活躍及びダイバーシティ推進を比較しながら、NTNUでは女性教授がどのような活動をしているかについてたいへん有意義な意見交換をすることができました。

本学は、現在のところ台湾の20大学と交流協定を締結していますが、パンデミックによって国際交流が困難になっていることもあり、台湾の協定校との実質的な交流実績の達成が課題となっています。今回オンラインで+1 Visitを経験させていただいて、学生交流や研究交流に加え、女性研究者支援や女性活躍推進の観点からも、本学の女性研究者と台湾の女性研究者との国際交流には一定の意義があるように感じられました。例えば、本学に適切なロールモデルを見出せない女性研究者も、台湾の女性研究者と交流することによって、ロールモデルとなる対象を広げることができるかもしれない、などの可能性が期待できます。また、ジェンダー平等に関する意識啓発という点でも、日本、あるいは沖縄の社会が台湾から学ぶべきことは多いように思われました。

「ジェンダー平等の達成」と「大学の国際化」は、私が今後とも関わっていきたい本学の管理運営上の課題です。本学のために何らかの貢献ができるよう、今後とも個人の資質向上をめざす研鑽を積んでいきたいです。

## ◆オーガナイザー養成支援

学内だけでなく、学会や外部委員会等の企画や運営等にリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的に、女性教員自らがオーガナイザーとして企画・運営に携わる、セミナーやシンポジウム等の実施を支援しました。令和3年度においては、5名が本支援の採択を受け、セミナー等を開催しました。

**申請資格** 本学に在職する女性教員(特任教員及び特命教員は除く。)

**内容** 女性教員自らが主催者としてセミナー・シンポジウム等を企画し、学外からの講師やゲストの招へいをはじめ、開催に向けた事前準備、当日の運営等をリーダーシップを発揮して進める機会を提供する。招へい旅費や会場費等、実施に係る費用の全額または一部を補助する。

**利用者** 金城 紀子(大学院医学研究科 助教)

「沖縄移行期医療研究会～小児リウマチ性疾患のより良い移行を考える～」

大湾 知子(医学部 准教授)

「排尿・排便の管理～排泄の悩みを解決しよう!～」

玉城 絵美(工学部 教授)

「キャリアデザイン,就職,働き方バリアとその乗り越え方-企業,大学,社会人,学生から見たキャリア形成ディスカッション-」

陳 碧霞(農学部 准教授)

“International Workshop Development of Community Development and Sustainable Tourism Programs in Natural Heritage Sites”

山元 淑乃(グローバル教育支援機構 准教授)

「沖縄から始まる持続可能な共生社会 ―誰ひとり取り残さない”時代を見据えて―」

### 「コロナ禍の移行期医療研究会の開催の意義」

大学院医学研究科育成医学(小児科) 講座 助教:金城 紀子

令和4年2月3日(木)に、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」の「オーガナイザー養成支援」によって、琉球大学大学院医学研究科育成医学(小児科) 講座が主催し、「沖縄移行期医療研究会～小児リウマチ性疾患のより良い移行を考える～」を開催することができました。

2014年に日本小児科学会から「小児期発症疾患を有する患者の移行期医療に関する提言」が発表されました。小児期から途切れることなく成人期へ移行する事を目的とする「移行期医療」は、成長に伴う心身の変化に対応し、適切な医療を円滑に提供することが重要であるとされています。

今回、慢性疾患である小児期発症リウマチ性疾患の視点から、移行期医療のエキスパートの小児リウマチ専門医と成人科リウマチ専門医の先生方に「小児リウマチ性疾患のより良い移行を考える」というテーマで、ご講演いただきました。本研究会の起案から開催まで、約1ヶ月と非常に短い期間であったにも関わらず、講師の先生方に快諾いただき、多大なご協力をいただきました。琉球大学大学院医学研究科育成医学(小児科) 教室からZoomによるweb配信を行いました。開催告知から開催まで約10日であったにも関わらず、全国から約60名の方にご参加いただきました。

移行期医療は、多職種によるチーム医療が重要です。本会の参加者が、医師(小児科、内科、整形外科、皮膚科、精神科)や看護師、心理士など、多職種の方にご参加いただく事ができましたことは、パートナーシップをより深めることに役立ったと確信しています。

今回のご支援によって、コロナ禍の中におきましても、web配信による開催によって、より弱い立場の子ども達の移行期医療の問題を全国の方と共有し、解決への第一歩を踏み出すことができたことと確信しております。オーガナイザー養成支援事業による支援をしていただき、心より感謝申し上げます。



## ◆リーダー育成海外研修

ウィスコンシン大学オークレア校教授のデイヴィッド・ジョーンズ先生と、ウィスコンシン州オークレア市評議員（副代表）として活躍しているキャサリン・エマヌエル氏を講師に迎え、オンラインセミナーを実施しました。職場や家庭における女性の活躍を促し、男女ともにキャリアアップをしていくためにも重要となる、ジェンダー理解のもとに築くパートナーシップについて、アメリカ社会の事例を交えてお話しいただくとともに、両氏の経験にもとづくグループワークは、実際の場面を想定した実践的な学びの機会となりました。

### ●「Allyships for Women's Leadership: Leveraging Feminism for Institutional Change」 組織を変える「てこ」としての女性活躍とパートナーシップ

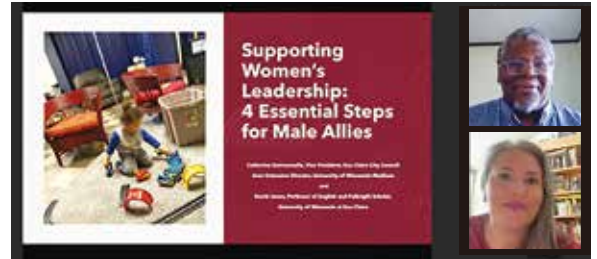
日時：令和3年7月30日（金）

講師：David Jones 氏

（ウィスコンシン大学オークレア校 教授）

Catherine Emmanuelle 氏

（ウィスコンシン州オークレア市評議員 副代表）



## ◆女性教員海外調査派遣制度

将来リーダーとして大学を牽引する人材を育成し、女性教員のキャリアアップと上位職登用を推進することを目的として、海外の研究機関において一定期間、研究及び組織運営に関する調査に専念できる環境を提供する制度です。

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応としてオンラインを活用した活動についても支援対象とし、募集を行いました。応募者がいませんでした。

**申請資格** 本学に所属する女性教員で、次の要件を全て満たしているもの

- (1) 教授・准教授・講師の職にあるもの（特任教員及び特命教員を除く）。
- (2) 本学における在職期間が継続して3年を超えること。
- (3) 本制度を利用後、5年以上本学で勤務することができること。
- (4) 所属する部局等の長（所属長）が承諾すること。
- (5) 海外の教育研究機関等での研究または学術調査に充てること。加えて、当該機関において組織運営について学ぶ機会を計画に含むこと。

但し、教授の職にあるものについては、利用は「組織における管理運営に関する調査」に限ることとし、研究や学術調査に充てることはできません。

**内容** 本制度の利用期間中、その職務の全てまたは一部を免除するとともに、受入先機関までの移動に係る交通費及び滞在費、研究活動に係る旅費及びベンチフィーを補助します。また、本制度利用中の教育に支障のないよう、代替非常勤講師雇用に係る経費を措置します。

## ◆イクボス養成のためのセミナー等の実施

主な対象を教職員の上位職、管理職とし、イクボスセミナーを開催しました。セミナーでは、オンラインで部下やメンバーと円滑にコミュニケーションをとる方法や、オンラインの効果的な活用について学びました。

### ●イクボスセミナー「オンライン」を活用したニューノーマルな「働き方」

日時：令和4年3月25日（金）

講師：比嘉 秀一 氏（株式会社 Life is Love 取締役）

## より広いダイバーシティ研究環境形成のための取組

### ◆ダイバーシティ推進セミナー

本学に所属する教職員、学生を主な対象に、より広いダイバーシティ研究環境形成を本学が推進するSDGsの取組と関連させることによって、さらなる推進に繋げることを目的として開催しました。

- 「全ての人の Well-being を実現するための D&I—アンコンシャス・バイアスを排し心理的安全性を確保する」

日時: 令和4年3月14日(月)

講師: 田瀬 和夫 氏 (SDGパートナーズ有限会社 代表取締役CEO)

吉村 美紀 氏 (SDGパートナーズ有限会社 取締役)



## 若手研究者・次世代育成のための取組

### ◆琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞

琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金による「琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞」を創設し、第1回目の募集を行いました。

本賞は、琉球大学に在籍する女子学生の意欲的な研究活動や社会貢献等の活動を奨励し、今後も継続して研究等の活動に取り組んでいただく動機付けにしようことを目的としたものです。

#### 応募資格

- (1) 本学に在籍する女子学生
- (2) すでに発表された論文や著書等の業績または地域及び国際社会への貢献等、の学生の模範となる顕著な実績のある者

#### 受賞者

厳正なる審査の結果、2名の受賞を決定しました。

**最優秀賞** 西嶋 櫻 (教育学部 4年)

**優秀賞** 大田 光 (人文社会科学研究科 博士後期課程 2年)



### ◆琉球大学岸本遺贈基金寄附金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」

本学の博士後期課程及び専門職学位課程に在籍する女子大学院生を海外の研究機関等に派遣し、国際的な研究環境でのリサーチ活動や、多様な学問文化を経験させることによって、将来グローバルに活躍する次世代の女性研究者を養成することを目的として実施しました。

#### 採択者

厳正なる審査の結果、令和3年度は1名を採択しました。

比嘉 麻莉奈 (人文社会科学研究科 博士後期課程)

## ◆研究活動等支援員制度

研究者の出産・育児、介護等のライフイベントと研究活動との両立を支援するため、研究活動等支援員を配置しました。また、学部学生・院生を支援員として雇用し、配置することによって、研究者のライフイベント支援だけでなく支援員自身の研究やキャリア形成を考える機会を創出し、次世代の研究者育成にも努めました。

令和3年度は、第1期・第2期合わせて延べ19名の研究者に対し、27名の支援員が配置されました。

■ 表 令和3年度研究活動等支援員制度 支援内訳（人）

	第1期	第2期
研究者	9	10
支援員	12	15

## ■ ニュースレター・HP 等による情報発信・報告

ニュースレターや上位職ロールモデル集の発行、HPを通して、本事業における取組等の情報発信及び報告を行いました。

### ● ニュースレター『うない通信 for 先端型』 Vol.4

令和4年3月発行

<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/newsletter/>

### ● ロールモデル集『Polaris』 Vol.2

令和4年3月発行

<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/other/>

### ● 先端型 HP

<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/>



## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）事業

琉球大学は令和元年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に採択されました。同事業は、令和6年度までの実施期間に、女性研究者を含む若手研究者の登用を進めながら、組織の中核において大学の管理運営を担うことのできる女性教員の育成に向けた取組を通して、女性研究者の研究力向上及び上位職登用をより一層支援・促進するものです。

琉球大学は、本事業の目標と計画を次の通り掲げています。

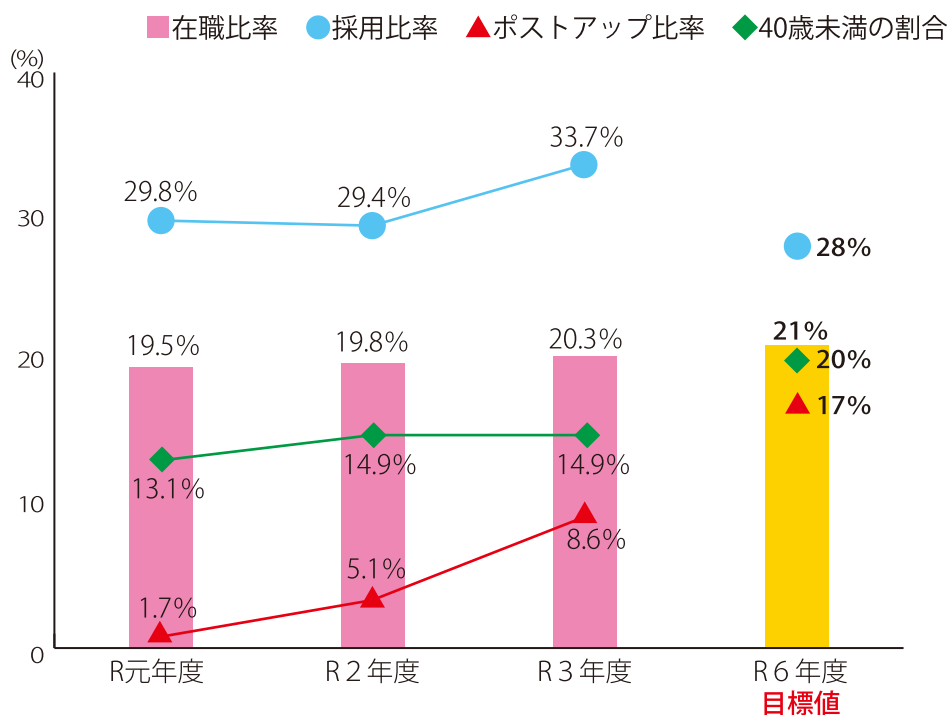
### 目 標

- I 女性教員の管理運営能力を高め、大学の中核への女性教員の参画を推進する。
- II 女性を含む若手研究者の在職率を高めるとともに、キャリアパスを整備する。
- III より広いダイバーシティ研究環境形成の観点から、グローバル人材を積極的に採用・登用する。

### 数値目標

- ・女性研究者の採用比率 28%
- ・女性研究者の在職比率 21%
- ・女性研究者のポストアップ比率 17%以上
- ・本務教員全体における40歳未満の割合 20%以上

図) 琉球大学女性研究者の採用及び在職比率と目標値



国立大学法人琉球大学  
ジェンダー協働推進室

University of the Ryukyus  
Gender Equality Promotion Office

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地  
TEL 098-895-8675 FAX 098-895-8760  
Email [gender@acs.u-ryukyu.ac.jp](mailto:gender@acs.u-ryukyu.ac.jp)  
<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/>